

日時：2013年11月6日（水）午後5時～7時

場所：立命館大学・衣笠キャンパス・末川記念会館第3会議室

## 朗読と対話の集い

# 海へ一言葉と境界を越えてー

ゲスト：イルマ・ラクーサ、多和田葉子

司会：中川成美

世界において言語や国境を越えて移動しながら生きている多数の人々が存在する。それぞれの国家や民族の事情を抱え持ち、それらに翻弄される人々はあとをたたない。そうした環境の中で獲得された異言語、異文化をわが身体の内奥に滴らせ落としながら文学活動をする一群の文学者に焦点を当てて、彼ら彼女らが紡ぐ文学に触れてみようというのが今回の朗読と対話の集いの目的である。この秋深まる京都にこのたびは二人の文学者をお招きした。お一人はスイス在住の作家でMehr Meer（もつと海へ）などの作品を書いたイルマ・ラクーサ氏、もうお一人はドイツ在住の日本人作家・多和田葉子氏である。このお二人に自作の朗読をしていただき、そのあと対話の時間を持ちたい。



多和田葉子（作家）

多和田葉子氏はドイツに在住してドイツ語による作品を発表する作家であるが、一方日本語による作品も多数発表しており、芥川賞をとった「犬婿入り」や、「容疑者の夜行列車」、「旅をする裸の眼」、「雪の練習生」などがある。また、複数言語による作家活動の経験から書いた「エクソフォニーー母語の外に出る旅ー」は刺激的な現代文学の提言となっている。

Ilma Rakusa（作家・翻訳家）

イルマ・ラクーサ氏は主にドイツ語で小説や詩を書いているが、他にロシア語（アフマートヴァ、プロツキーなど）とフランス語（ジャック・ルボーなど）からのドイツ語翻訳を多数出している翻訳家でもある。彼女自身父親はスロベニア人、母親はハンガリー人という環境の中で育ち、国や言語を越境しながら活動を続けてきた。本年10月にはAutobiographie als Bildungsroman（教養小説としての自伝）を上梓する予定である。



主催：立命館大学国際言語文化研究所、2013年度国際言語文化研究所研究所重点研究プロジェクト「トラベル・ライティングの研究」

お問い合わせ先：立命館大学国際言語文化研究所 Tel：075-465-8164

E-mail：genbun@st.ritsumeikan.ac.jp 参加費・事前申込不要